

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 7 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100107		
法人名	有限会社ブレイクスルー		
事業所名	グループホームびんご倶楽部		
所在地	広島県尾道市因島三庄町3472番地 (電話) 0845-26-6177		
自己評価作成日	令和6年4月20日	評価結果市町受理日	令和6年7月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3491100107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年6月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた環境で、利用者様がゆったりした生活を送って頂くために、理念である「家庭的で笑いのある暮らし」を実践し、穏やかにそして出来ることは自分でその人の好きなこと大切なことのこだわりを最後まで大切に自立支援している。日々の生活の中で本人のつぶやきや会話に注意を払い、行きたい所やしたい事を知り本人の意向に添った買い物や外食、ドライブなど利用者様のご希望をかなえるように支援している。日頃の利用者の笑顔を大切にしながら、できる事に注目した一緒にできる作業提供を行っている。毎月ごとに季節行事を取り入れ楽しみを持てる日常の支援をしている。入居者の方が早く施設に馴染まれるように雰囲気作りや話題づくりをし利用者を結びつけている。医療連携を取りながら、本人、家族の意向に添った看取り介護を行っている。コロナ前は月1回、認知症カフェを開催し、地域の方々に気軽に参加して頂いていたが今は休止中。6年は再開し認知症予防啓発活動や地域の拠り所として開催していき、カフェに、利用者の方にも参加して頂き、参加された地域の方との交流も行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域との絆を重視し、地区会に加入して溝掃除や足の不自由な隣組に代わって回覧板を回したり、利用者は盆踊り等の地域行事や季節の外出行事で利用者の地区毎の花見に行ったり、馴染みの理容院等で外出している。訪問し易い事業所作りに尽力し、家族の面会・地域住民の運営推進会議参加やけんか神輿の来訪、技能実習生がその担ぎ手に飲み物の差し入れ等、双方向の交流もある。運営推進会議を活かした取り組みとして区長からの要請で事業所を災害時の緊急避難先とし、又、事業所も地域の防災訓練へ参加する等、地域連携に繋げている。職員である技能実習生に対し法人にて接遇研修を行い、国民性や資質により彼女達の「～さん行こう」と穏やかな物言いや「後ろを通ります」と言うと利用者も動いてくれる等の対応が他の職員にも気づきを与えている。
--

自己評価	外部評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は、毎朝朝礼（申送り）時に唱和し、職員の羅針盤として共有し、目標管理に努めている。理念に対し、私たちがどう取り組むことが正しいかを考えている。	開設時に作った理念をケア実践上の道標として掲示・唱和し周知に努め、毎月のユニット会議等で利用者の状態・行動を振り返る中で理念の達成度を検証し管理者は気づきを促している。利用者の三日ぶりの排便を皆で喜び、理念に謳う「家庭的で笑いのある暮らし」を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	島内及び事業所同区のイベントにはできるだけ参加又は神輿が施設に訪問していただいたりし、地域の方々との交流を図っている。日常的に事業所周辺の掃除を行い、地域の方々と挨拶や世間話等で交流が保てている。	事業所は地区会に加入し、溝掃除や足の不自由な隣組に代わって回覧板を回したり、利用者は地域行事や季節の外出行事、家族と受診等で外出している。又家族の面会・地域住民の運営推進会議参加やけんか神輿の来訪、技能実習生がその担ぎ手に飲み物を差し入れる等、双方向の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は認知症カフェを開催し、地域住民の方との交流や認知症への対応方法や予防等の勉強会等を行っていたが、コロナ禍及び地域の方々の状況が変化したことで認知症カフェの開催には至っていないが、地域の方と再開に向けた話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に開催し、活動状況の報告をはじめ、外出支援・防災訓練・研修・事故報告等を報告し、地域の方や包括職員より意見・要望を頂きながら、ケア内容の充実と、地域に根差した施設づくりに努めている。	会議は隔月開催で利用者・家族代表、区長・民生委員・郵便局長・地域包括支援センター職員等との対面会議となっている。参加者から事業所を災害時の緊急避難先とする要請や事業所から地域の防災訓練への参加打診等、地域連携に繋げている。議事録綴りは家族に閲覧可能である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域柄、頻回ではないが、事業所についての連絡・相談は市役所まで赴いて相談を行い、介護保険に関する内容等を確認し、サービス向上に努めている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し情報共有をしている。又同センター主催の地域密着型会議に参加し、見守りネット等で連携を図った経緯がある。同センターから認知症カフェの再開要請があり、再開に向けた協議や行政主催の研修参加等、協力関係の構築を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各利用者様の居室には鍵が設置してあるが、玄関やユニット出入口は開錠状態で運営している。身体拘束廃止について、事業所内研修を自他事例を通して学び、やむを得ない場合のみご家族様に内容説明し、同意を得るようにしている。今年度は、身体拘束の実績は無し。	毎月の身体拘束委員会や年4回の研修会で職員は拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。昼は玄関を施錠せず見守り対応である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を本社を軸に設置し、各ユニット毎に委員を選出し、定期的に自らの援助方法の振り返り、気づきを検討している。ユニット会議で定期的に事例を基に研修を行い、事業所内での防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護と成年後見制度についてユニット会議で定期的に啓発し、周知するようにしている。利用者の権利擁護は、個別において必要な状況であれば積極的に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居において、契約及び解約等の内容について入居者や家族にわかりやすいように担当者より十分な説明を行い、不安や疑問、意向を聞きながら理解・納得を得るようにしている。法改正時には文書にて説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見及び苦情BOXを設置しているが、利用されている方はいない。日常的に意見の話しやすい雰囲気づくりに努め、家族の面会時には日常の生活の様子を報告すると共に、意見、要望を伺い、運営やケアに反映するように取り組んでいる。	家族とは面会時・介護計画更新時・電話連絡時・LINE（SNS）・運営推進会議等で職員は意見を把握し、申し送りノート等で情報共有をしている。副食を食べない利用者に対し、家族からの情報で「元々炭水化物が好き」ということがわかり、あんパンを提供するようになった例がある。	

自己評価	外部評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から自由に話し合える雰囲気づくりに努め、意見等は随時受けている。ユニット会議もその機会とし、運営に反映するように努めている。改善点の大小にかかわらず本社と連携をとりながら改善に努めている。職員個別に話を聞くなどしてストレスケアにも努めている。	事業所は申し送り、ユニット会議、担当者会議や随時の管理者との個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員提案で浴槽またぎが難しい利用者に対し入浴台の導入をした例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場環境づくりに努めている。個別面談を適時行い、職員の努力や成果、悩みについて把握し、向上心を持って働けるよう目標設定し、人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画を組み、施設内研修に力を入れケアの質の向上に努めている。研修内容は自事業所で作成したものの他、他事業所の資料を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	包括支援センター主催の地域密着型会議に参加し、他施設の方々と意見交換を行うと共に、他事業所の事例を自事業所でケアや業務に活かしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、事前面接で本人に会い、生活・活動状況を把握し本人の心身の状態や表情、何気ない言動を拾い、不安や要望等に対応するよう、口頭・記録により職員間で状況共有しあい、共通の認識の下、援助にあたっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安・困りごとを伺い、具体的な対応を提示することで不安の解消に努めている。性格・生活歴・サービス利用状況・要望等を伺い援助に繋げている。初期段階では細かな家族連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にしっかりと話を伺った上で、本人や家族の想い、状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、必要なサービスに繋げるようにしている。他のサービスを含め、考えられる支援について情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割づくりに努めている。その中において、個人を尊重し、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の生活の様子をお便りや面会時等で伝え、日々の生活の出来事や、気づきの情報共有に努め、家族の想いを含めた支援を行い、共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用していた理容院、お店などへ出かけたり友人・知人の面会も行ってもらうことで、なじみの関係が途切れないように配慮している。自宅を見に行ったり自宅近所をドライブする等、場所の関係が途切れない支援を行っている。かかりつけ医もこれまでの病院を利用してもらうようにしている。	訪問しやすい事業所を重視し、現在は事前予約にて1階フロアでの直接面会が可能である。又、手持ちの携帯電話で家族と話したり、家族に夏服を希望する旨の手紙を出すと家族から連絡を受けた店から服が届く等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性について職員間での情報共有に努めている。認知度やADLの差に合わせ援助を行っている。挨拶・会話の橋渡しをすることで利用者同士の関係づくりに努めている。また、共に家事を行うことで、共同生活の時間を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去や入院された際には介護の継続性の為に情報提供を行っている。入院された場合には、見舞い訪問し関係づくりを継続している。サービス終了後でも必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、表情やつぶやきからくみ取り、想いに添った支援に努めている。その想いを職員全員が把握できるようにカンファレンス、ミーティング時に話し合いを行っている。関わる時には、ゆっくりと丁寧に対応している。	麻雀好きな利用者の思いに沿ってタブレットで麻雀ゲームを提供している。又聴覚障害はあるが読唇術が出来る方に職員はマスクを外し大きくゆっくり話すことで対応、本人の世話をしていた妹さんに感謝でテレビを贈る事に寄り添えた経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及びご家族、サービス提供事業者からの情報を基に生活歴・なじみの暮らしの把握に努めている。面会時、家族からの情報や知人からも情報を頂いている。その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の心身状態・生活リズムの把握を行い、状況に合わせた援助を行っている。観察点は、伝達・記録により情報共有し、統一した援助を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人及びご家族の意向と日々の各種ケア記録及び担当職員の意見を踏まえたプランを作成している。また、状況の変化や本人及びご家族の意向に沿い、定期及び随時に計画を見直している。	利用者・家族、関係職種の意見を反映した原案を毎月の担当者会議で検討し、計画作成担当者が3か月毎にモニタリング、計画を見直している。入院中、車いすだった利用者が入居の夜歩いてトイレに行ったので歩行車対応にした等、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活状況援助の実施結果を記録。個人記録へは生活の様子を本人の言動と共に、気づきを記録。身体状況の把握を行う。記録は全職員が目を通し、情報共有に努めている。また、記録を基にした計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療機関・家族・専門職（看護師）との連携を取りながら健康管理に努めている。定期健診、日々の買い物だけでなく、利用者の希望を汲み取りながら外出に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署と連携を取りながら防災訓練を行い、実施後には助言をもらっている。個々の想い、希望に沿ったお出掛けや買い物、食事に必要に応じ各分野から協力が得られるようにしている。友人知人の面会も来ていただけるように働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には本人及びご家族の通い慣れたかかりつけ医に受診していただくが、希望により協力医療機関につなげ、定期的な往診及び受診を受けられるようにしている。また受診の際には、職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。	協力医を主治医とすることも可能だが、多くは利用前の主治医の受診継続である。協力内科医は月1回の訪問診療、歯科医からは適宜往診又は受診対応、専門医の受診は主に事業所で行っている。非常勤看護職員の配置もあり、健康管理や24時間連絡体制や緊急時対応を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目（北ユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化は看護師に随時報告し助言を受け適切な医療や看護を受けられるように支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、職員が見まい、家族とも情報交換をしながら回復状況等を確認し、病院関係者と情報交換等の連携を取りながら、速やかな再入居に向けた活動を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に終末期について家族に話し、希望があれば支援していく方針である。重度化した場合や終末期の在り方について施設としてできること、できないことを家族に伝え、家族・本人の想いに注意を払いながらかかりつけ医の見解・施設の対応等話し合い、方針を共有し支援している。	要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に重度化した場合における対応指針・同意書にて説明し了解を得ている。重度化した際には指針に従い適切な支援を行っている。過去に看取りの経験もあり、事後には職員アンケートをもとに職員会議で対応を振り返り気づきを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に看護師より指導・処置を受けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した年2回の火災及び年1回の防災避難訓練を実施している。また、消火器の使用方法や救護方法・災害時避難場所の確認についても防災学習を実施した。災害等の地域との連携について運営推進会議等で話し合いを行うようにしている。	事業所は年2回の火災訓練と年1回の防災訓練を夜間想定、利用者も参加して行い、又職員に技能実習生もいるので毎月消火器の設置場所を確認させている。事業所は土砂災害警戒区域であり、災害時の避難場所として協力可能な旨を地域に発信したり、地域の防災訓練にも参加している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所内研修を行い読み合わせを行い周知している。虐待・身体拘束廃止委員会の取り組みの中でも力を入れている。声掛けもお互いに注意し合い、業務を行っている。排泄・入浴場面においては、特に意識を高め、羞恥心に配慮した援助を行っている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。法人にて6名の技能実習生に接遇研修を行い、彼女達の「～さん行こう」と穏やかな物言いや「後ろを通ります」と言う利用者も動いてくれる等の対応が他の職員にも気づきを与えている。排泄時も小声で誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつの時、好みの飲み物・入浴時の衣類の選択・食材・日用品の買い物時等、希望を確認しながら自己決定ができる工夫をしたり、意思表示が困難な方は表情から想いを汲み取り、本人が決定する場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日を楽しく過ごせるように、できるだけ本人のペースに添って体調をみながら、その時の気持ちを尊重し、個別の支援を行っている。援助を行う際には、目的を説明し、個々の能力・意欲を引き出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好きな服と一緒に選んだり、訪問理容で好みの髪型にしてもらっている。日々の整容も個人の能力に合わせ支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	状況に応じて準備から片付けまでできることは職員と一緒に本人の意思を確認して手伝っていただいている。また、会話の中から希望を聞き、献立の中に取り込んでいる。	調理員の献立による三食手作りで、好みによりパン朝食も可能である。利用者は食卓拭き他、できる役割を担い、又、食が楽しめる様、誕生日に好きな果物と羊羹、利用者とホットプレートでお好み焼き、バレンタインにデザート作り等の工夫や家族から野菜・果物等の差し入れもある。	

自己評価	外部評価	項 目（ 北ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	食事量・水分量が一目でわかるチェック 表があり、それを活用し状況把握をして いる。水分量は1200～1500CCを目安に確 保してもらっている。食事が進まない方 には、個々の状態に応じて食事形態の調 整、工夫をし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は適切な口腔ケアが及ぼす影響を理 解し、毎食後に必ず口腔ケアを実施して いる。その方の能力により見守りや声掛 け等を行っている。自立の方にも適宜口 腔内観察を行い、口腔内の状態変化があ れば相談を行い歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をもとに、排泄パターン に沿った対応に心がけている。またでき る限りトイレ内排泄を促している。オム ツの必要な方には十分な検討を行い、使 用するようにしている。	排泄記録表で排泄パターンを把握しトイレ誘導を基本としている。入院中の紙お むつから紙パンツへの移行や可動式手す りで座位姿勢を支え、夜間排泄時の転倒 防止の為、居室に夜間のみポータブルト イレや人感センサー設置、男性用小便器 等、状態に合わせた自立支援を行ってい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排泄状況並びに食事形態や水分量 に気配りをしている。また、一日の活動 量を踏まえると共に、排便間隔及び便の 形状を常に確認するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日ごとに一応の対応を決めているが、 気分がすぐれない時は無理強いをしない ようにし、タイミングが合えば入浴して もらうようにしている。その場合の時間 や曜日の変更は随時行っている。	週2～3回の午前浴が基本だが、利用者 の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応し ている。入浴は半埋め込み式浴槽を利用 した個人浴だが、利用者の重度化に伴 い、心身の負担を考慮しシャワー浴や足 浴で対応することもある。又、季節を感 じられる様、柚子湯を提供することもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (北ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の状況に応じて休息場所や 寝具類の検討を行っている。また、 メンタル的な不安要素等に関して は、安心していただけるまで付添 いを行い、傾聴している。日々の 活動量にも留意し関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方箋を綴り、効能、副作用につ いて確認できるようにしている。 服薬目的及び内容を理解し、適 切な服薬支援に努めている。また、 誤薬防止の為、個人別に服薬を 渡し、飲み込むまで確認している。 内服後の袋も改修し、飲み忘れ 等の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生活歴を把握すると共に、生活 の中で本人の経験などを把握し、 生活に多くのものを取り入れる ようにしている。できること、 できないことを把握し、自らは できるようにしている。季節行 事を大切に提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	外出する際は感染対策を行い ながら出かけるようにしている。 閉じこもり防止の為に、施設 外へ散歩に出かけたり外気浴 をしてもらい気分転換をして いる。	利用者の希望により少人数で 近隣公園へ散歩、地域の盆踊 りへ参加、馴染みの理容院や お店の利用、家族の協力のもと 受診・一時帰宅等、馴染みの 場所で馴染みの顔や声と何気 ない日常を楽しめる様に支 援している。又、外出行事と して五柱神社で初詣、利用者 の地区毎の花見に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	直接的な金銭管理は行ってい ないが、本人及びご家族の希 望で少額を持ってもらう方も おられる。欲しいものがある 場合は、ご家族に報告し購入 できるようにしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目（北ユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	連絡を取りたいときは電話をしてもらったり、知人からの電話の取り次ぎも行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができ、季節感が感じられる装飾も行っている。また、湿度や温度を確認し快適な空間づくりを行っている。季節の花を飾る等、気持ちが落ち着くような工夫をしている。	行事の飾り付けや利用者の壁掛け作品、生け花等で季節の移ろいが感じられる様配慮している。又、外部の騒音は利用者の好きな音楽で、汲み取り作業の臭気は閉窓で防ぎ、食卓を叩く利用者に対しては卓上にビニールで覆った段ボールを置いて消音する等、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットにテーブル及び椅子を設置したスペースで、入居者それぞれの思いにより自由に過ごせるようにしている。利用者同士で居室で一緒に過ごされたり、くつろいでおられる様子もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に昔なじみの身の回りの物や家具・調度品等を持参していただくように声掛けしている。ポスター等も壁に飾れるようにしている。	居室にはベッド・クローゼット等を設置し、布団・冷蔵庫等、使い慣れた物や仏壇等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室の表札、目印の設置により、自室が判りやすいようにしている。また、バリアフリーであり福祉用具の使用も支障はない。エレベーター使用により階層を行き来することができる。		

V アウトカム項目(北ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 南ユニット ）		外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は、毎朝朝礼（申送り）時に唱和し、職員の羅針盤として共有し、目標管理に努めている。理念に対し、私たちがどう取り組むことが正しいかを考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	島内及び事業所同区のイベントにはできるだけ参加又は神輿が施設に訪問していただいたりし、地域の方々との交流を図っている。日常的に事業所周辺の掃除を行い、地域の方々と挨拶や世間話等で交流が保てている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は認知症カフェを開催し、地域住民の方との交流や認知症への対応方法や予防等の勉強会等を行っていたが、コロナ禍及び地域の方々の状況が変化したことで認知症カフェの開催には至っていないが、地域の方と再開に向けた話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に開催し、活動状況の報告をはじめ、外出支援・防災訓練・研修・事故報告等を報告し、地域の方や包括職員より意見・要望を頂きながら、ケア内容の充実と、地域に根差した施設づくりに努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域柄、頻回ではないが、事業所についての連絡・相談は市役所まで赴いて相談を行い、介護保険に関する内容等を確認し、サービス向上に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各利用者様の居室には鍵が設置してあるが、玄関やユニット出入口は開錠状態で運営している。身体拘束廃止について、事業所内研修を自他事例を通して学び、やむを得ない場合のみご家族様に内容説明し、同意を得るようにしている。今年度は、身体拘束の実績は無し。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を本社を軸に設置し、各ユニット毎に委員を選出し、定期的に自らの援助方法の振り返り、気づきを検討している、ユニット会議で定期的に事例を基に研修を行い、事業所内での防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護と成年後見制度についてユニット会議で定期的に啓発し、周知するようにしている。利用者の権利擁護は、個別において必要な状況であれば積極的に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居において、契約及び解約等の内容について入居者や家族にわかりやすいように担当者より十分な説明を行い、不安や疑問、意向を聞きながら理解・納得を得るようにしている。法改正時には文書にて説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見及び苦情BOXを設置しているが、利用されている方はいない。日常的に意見の話しやすい雰囲気づくりに努め、家族の面会時には日常の生活の様子を報告すると共に、意見、要望を伺い、運営やケアに反省するように取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から自由に話し合える雰囲気づくりに努め、意見等は随時受けている。ユニット会議もその機会とし、運営に反映するように努めている。改善点の大小にかかわらず本社と連携をとりながら改善に努めている。職員個別に話を聞くなどしてストレスケアにも努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場環境づくりに努めている。個別面談を適時行い、職員の努力や成果、悩みについて把握し、向上心を持って働けるよう目標設定し、人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画を組み、施設内研修に力を入れケアの質の向上に努めている。研修内容は自事業所で作成したもの他、他事業所の資料を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	包括支援センター主催の地域密着型会議に参加し、他施設の方々と意見交換を行うと共に、他事業所の事例を自事業所でケアや業務に活かしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、事前面接で本人に会い、生活・活動状況を把握し本人の心身の状態や表情、何気ない言動を拾い、不安や要望等に対応するよう、口頭・記録により職員間で状況共有しあい、共通の認識の下、援助にあたっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安・困りごとを伺い、具体的な対応を提示することで不安の解消に努めている。性格・生活歴・サービス利用状況・要望等を伺い援助に繋げている。初期段階では細かな家族連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にしっかりと話を伺った上で、本人や家族の想い、状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、必要なサービスに繋げるようにしている。他のサービスを含め、考えられる支援について情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割づくりに努めている。その中において、個人を尊重し、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の生活の様子をお便りや面会時等で伝え、日々の生活の出来事や、気づきの情報共有に努め、家族の想いを含めた支援を行い、共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用していた理容院、お店などへ出かけたり友人・知人の面会も行ってもらうことで、なじみの関係が途切れないように配慮している。自宅を見に行ったり自宅近所をドライブする等、場所の関係が途切れない支援を行っている。かかりつけ医もこれまでの病院を利用してもらうようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性について職員間での情報共有に努めている。認知度やADLの差に合わせ援助を行っている。挨拶・会話の橋渡しをすることで利用者同士の関係づくりに努めている。また、共に家事を行うことで、共同生活の時間を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去や入院された際には介護の継続性の為に情報提供を行っている。入院された場合には、見舞い訪問し関係づくりを継続している。サービス終了後でも必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、表情やつぶやきからくみ取り、想いに添った支援に努めている。その想いを職員全員が把握できるようにカンファレンス、ミーティング時に話し合いを行っている。関わる時には、ゆっくりと丁寧に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及びご家族、サービス提供事業者からの情報を基に生活歴・なじみの暮らしの把握に努めている。面会時、家族からの情報や知人からも情報を頂いている。その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の心身状態・生活リズムの把握を行い、状況に合わせた援助を行っている。観察点は、伝達・記録により情報共有し、統一した援助を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人及びご家族の意向と日々の各種ケア記録及び担当職員の意見を踏まえたプランを作成している。また、状況の変化や本人及びご家族の意向に沿い、定期及び随時に計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活状況援助の実施結果を記録。個人記録へは生活の様子を本人の言動と共に、気づきを記録。身体状況の把握を行う。記録は全職員が目を通し、情報共有に努めている。また、記録を基にした計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療機関・家族・専門職（看護師）との連携を取りながら健康管理に努めている。定期健診、日々の買い物だけでなく、利用者の希望を汲み取りながら外出に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署と連携を取りながら防災訓練を行い、実施後には助言をもらっている。個々の想い、希望に沿ったお出掛けや買い物、食事に必要に応じ各分野から協力が得られるようにしている。友人知人の面会も来ていただけるように働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には本人及びご家族の通い慣れたかかりつけ医に受診していただくが、希望により協力医療機関につなげ、定期的な往診及び受診を受けられるようにしている。また受診の際には、職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化は看護師に随時報告し助言を受け適切な医療や看護を受けられるように支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、職員が見まい、家族とも情報交換をしながら回復状況等を確認し、病院関係者と情報交換等の連携を取りながら、速やかな再入居に向けた活動を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に終末期について家族に話し、希望があれば支援していく方針である。重度化した場合や終末期の在り方について施設としてできること、できないことを家族に伝え、家族・本人の想いに注意を払いながらかかりつけ医の見解・施設の対応等話し合い、方針を共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に看護師より指導・処置を受けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した年2回の火災及び年1回の防災避難訓練を実施している。また、消火器の使用方法や救護方法・災害時避難場所の確認についても防災学習を実施した。災害等の地域との連携について運営推進会議等で話し合いを行うようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）		外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所内研修を行い読み合わせを行い周知している。虐待・身体拘束廃止委員会の取り組みの中でも力を入れている。声掛けもお互いに注意しあい。業務を行っている。排泄・入浴場面においては、特に意識を高め、羞恥心に配慮した援助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつの時、好みの飲み物・入浴時の衣類の選択・食材・日用品の買い物時等、希望を確認しながら自己決定ができる工夫をしたり、意思表示が困難な方は表情から想いを汲み取り、本人が決定する場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日を楽しく過ごせるように、できるだけ本人のペースに添って体調をみながら、その時の気持ちを尊重し、個別の支援を行っている。援助を行う際には、目的を説明し、個々の能力・意欲を引き出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好きな服を一緒に選んだり、訪問理容で好みの髪型にしてもらっている。日々の整容も個人の能力に合わせ支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	状況に応じて準備から片付けまでできることは職員と一緒に本人の意思を確認して手伝っていただいている。また、会話の中から希望を聞き、献立の中に取り込んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	食事量・水分量が一目でわかるチェック 表があり、それを活用し状況把握をして いる。水分量は1200～1500CCを目安に確 保してもらっている。食事が進まない方 には、個々の状態に応じて食事形態の調 整、工夫をし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は適切な口腔ケアが及ぼす影響を理 解し、毎食後に必ず口腔ケアを実施して いる。その方の能力により見守りや声掛 け等を行っている。自立の方にも適宜口 腔内観察を行い、口腔内の状態変化があ れば相談を行い歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をもとに、排泄パターン に沿った対応に心がけている。またでき る限りトイレ内排泄を促している。オム ツの必要な方には十分な検討を行い、使 用するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排泄状況並びに食事形態や水分量 に気配りをしている。また、一日の活動 量を踏まえると共に、排便間隔及び便の 形状常に確認するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日ごとに一応の対応を決めているが、 気分がすぐれない時は無理強いをしない ようにし、タイミングが合えば入浴して もらうようにしている。その場合の時間 や曜日の変更は随時行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の状況に応じて休息場所や 寝具類の検討を行っている。また、 メンタル的な不安要素等に関して は、安心していただけるまで付添 いを行い、傾聴している。日々の 活動量にも留意し関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方箋を綴り、効能、副作用につ いて確認できるようにしている。 服薬目的及び内容を理解し、適 切な服薬支援に努めている。また、 誤薬防止の為、個人別に服薬を 渡し、飲み込むまで確認している。 内服後の袋も改修し、飲み忘れ 等の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生活歴を把握すると共に、生活 の中で本人の経験などを把握し、 生活に多くものを取り入れるよ うにしている。できること、で きないことを把握し、自ら行え るようにしている。季節行事を 大切に提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	外出する際は感染対策を行い ながら出かけるようにしてい る。閉じこもり防止の為に、 施設外へ散歩に出かけたり外 気浴をしてもらい気分転換を している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	直接的な金銭管理は行ってい ないが、本人及びご家族の希 望で少額を持ってもらう方も おられる。欲しいものがある 場合は、ご家族に報告し購入 できるようにしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 南ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	連絡を取りたいときは電話をしてもらったり、知人からの電話の取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができ、季節感が感じられる装飾も行っている。また、湿度や温度を確認し快適な空間づくりを行っている。季節の花を飾る等、気持ちが落ち着くような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットにテーブル及び椅子を設置したスペースで、入居者それぞれの思いにより自由に過ごせるようにしている。利用者同士で居室で一緒に過ごされたり、くつろいでおられる様子もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に昔なじみの身の回りの物や家具・調度品等を持参していただくように声掛けしている。ポスター等も壁に飾るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室の表札、目印の設置により、自室が判りやすいようにしている。また、バリアフリーであり福祉用具の使用も支障はない。エレベーター使用により階層を行き来することができる。		

V アウトカム項目(南ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームびんご倶楽部

作成日 令和6年7月22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	地域の協働関係の更なる向上と利用者家族との情報の共有。	地域との事業所が互いに助け合える協働関係の構築と利用者家族との情報共有化。	2カ月に一度行う運営推進会において、地域防災や地域課題を相談しあい改善に向けて検討を行う。また、その運営推進会議で話し合った内容を利用者家族に公表することで、運営情報や取り組み内容等の情報を共有する。	12か月
2	13	職員を育てる取り組み。	特定技能実習生のレベルアップと教える立場となる事での既存職員の相互のレベルアップ。	外国人を教える事での相互のレベルアップに取り組み、ケアの質の向上を目指し、強みを上げていく。	12か月
3	35	災害対策。	一時避難先としての地域としての役割の強化。	BCPとしての備蓄品の整備と策定したBCPを実際に演習し、実行可能な計画かどうか検証を行い、修正を行い、実行可能な計画にする。	12か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。